

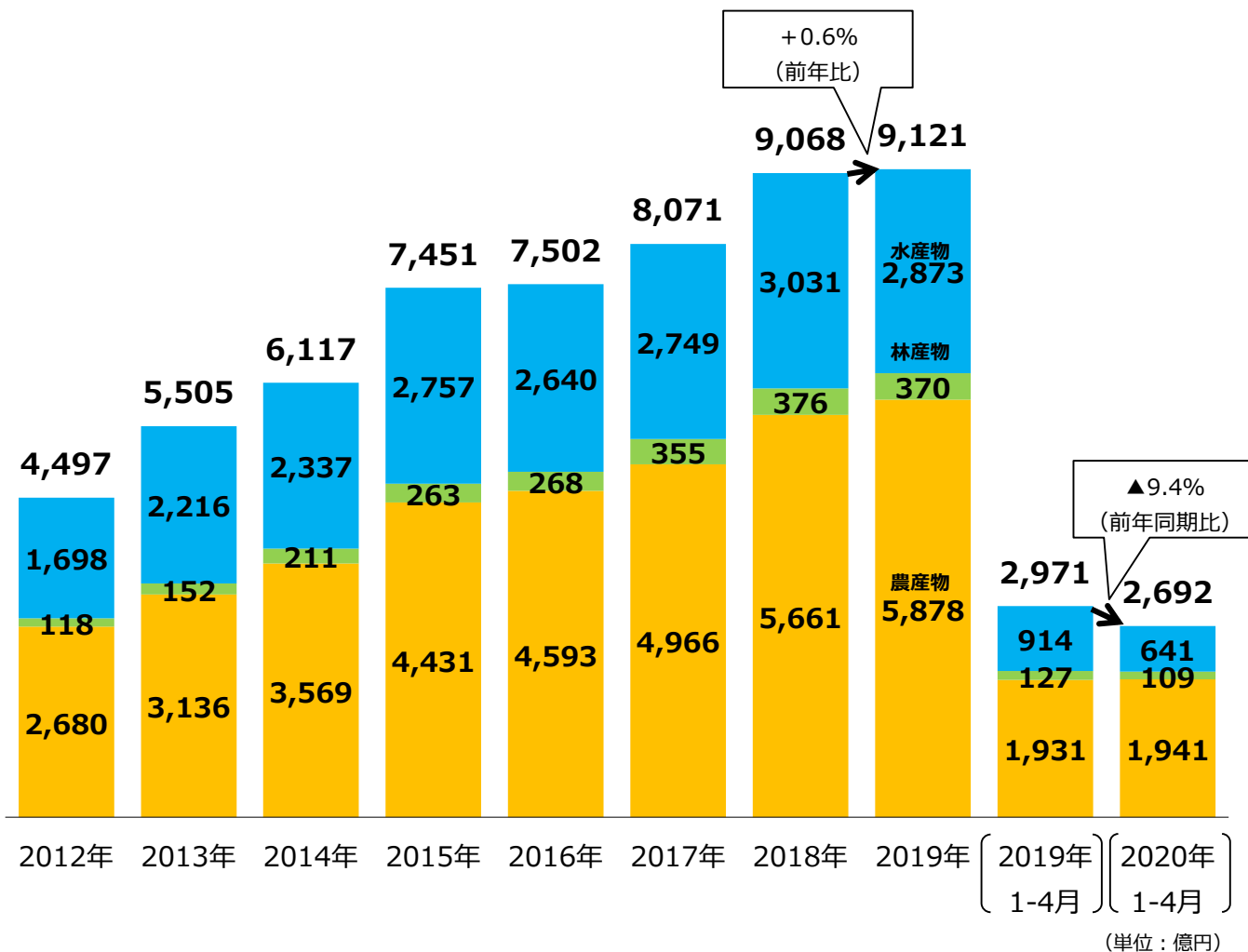
農林水産物・食品の輸出の状況



農林水産省

農林水産物・食品の輸出の状況

2019年の農林水産物・食品の輸出額は、1兆円目標には届かなかったものの9,121億円となり、7年連続で過去最高を更新。2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により展示会・商談会が中止・延期となる中、1-4月で対前年比9.4%の減少。



【月別の状況】

	輸出額	前年 同月比
1月	538億円	▲5.8%
2月	683億円	▲10.7%
3月	732億円	▲9.9%
4月	739億円	▲10.4%

2020年1－4月の農林水産物・食品の輸出の状況（品目別）

新型コロナウイルス感染症の世界的なまん延を背景に、①海外における外食需要の低迷、②商談機会の逸失、③旅客便の大幅減便による生鮮物流の停滞等の影響を受け、ホタテ、真珠等の水産物、牛肉、アルコール飲料等の輸出額が大きく減少。一方、安全・安心志向や家庭食へのシフト等を背景に、牛乳・乳製品（粉乳等）、コメ、鶏卵等については輸出が拡大。

	品 目	2020年1-4月（累計）		主な増減要因	（参考）4月単月	
		輸出額 （百万円）	対前年 増減率 （%）		輸出額 （百万円）	対前年 増減率 （%）
農 産 物	加工食品	110,917	3.2	－	31,597	3.8
	アルコール飲料	21,403	▲ 12.2	韓国、ベトナム向けが減少	5,245	▲ 19.2
	日本酒	6,340	▲ 23.5	中国、韓国向けが減少	1,402	▲ 37.3
	畜産品	21,985	1.0	－	6,104	▲ 1.2
	牛肉	6,456	▲ 28.9	カンボジア向けが減少	1,425	▲ 42.9
	牛乳・乳製品	7,148	23.9	ベトナム向け粉乳が増加	2,244	38.5
	鶏卵	1,277	102.9	香港の家庭用輸出が増加	480	182.1
	穀物等	15,425	5.6	－	4,319	9.6
	コメ	1,811	30.6	香港等で小売需要が増加	582	46.3
	野菜・果実等	12,589	▲ 5.3	－	2,786	12.9
	りんご	3,615	▲ 27.3	台湾、香港向けが減少	581	10.4
	いちご	1,591	5.6	香港向けが増加	192	9.7
	かんしょ	568	10.4	香港向けが増加	173	25.4
	その他農産物	33,205	▲ 7.6	－	9,710	▲ 7.0
	花き	4,743	▲ 9.9	中国向けが減少	1,620	▲ 7.6
林 産 物	林産物	10,912	▲ 14.3	－	3,343	▲ 9.5
	丸太	4,398	▲ 16.2	中国向けが減少	1,725	2.7
水 産 物	水産物	48,311	▲ 30.8	－	12,544	▲ 35.4
	ホタテ貝（生鮮・冷蔵・冷凍等）	8,330	▲ 27.4	中国内加工場の操業が鈍化	2,943	▲ 10.3
	真珠（天然・養殖）	1,501	▲ 84.3	香港の宝飾展示会の中止	214	▲ 74.8
	水産調製品	15,815	▲ 26.6	－	3,453	▲ 41.1

2020年1－4月の農林水産物・食品の輸出の状況（輸出先別）

輸出先上位の、香港、米国等向けの輸出額が大きく減少。

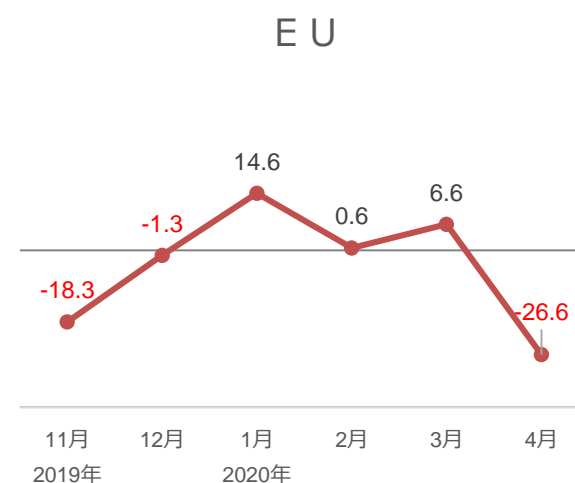
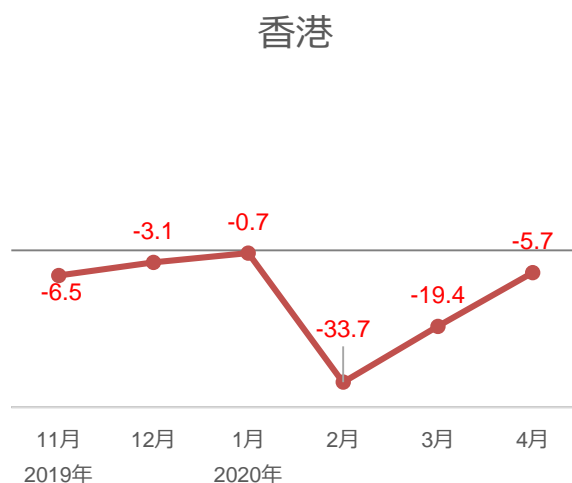
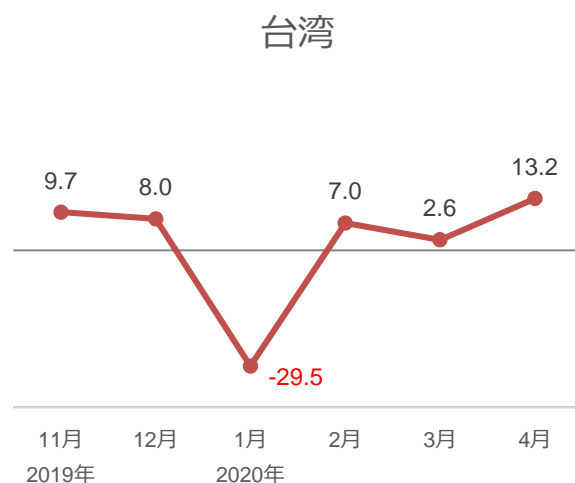
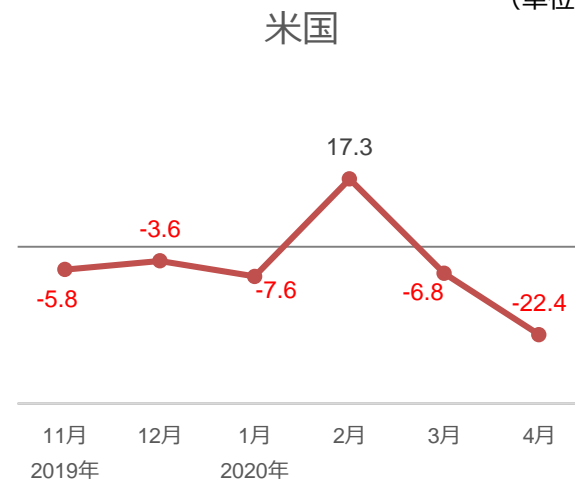
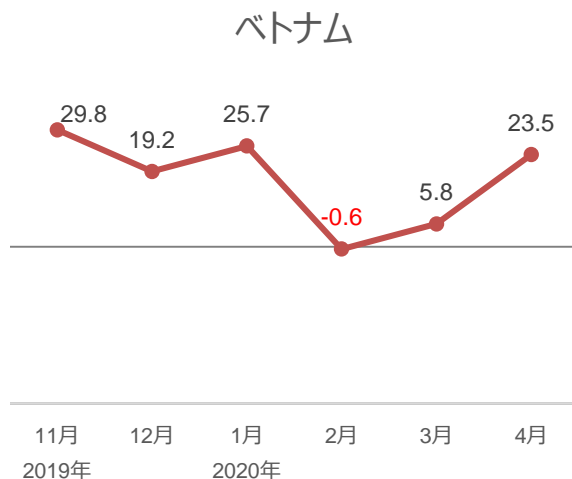
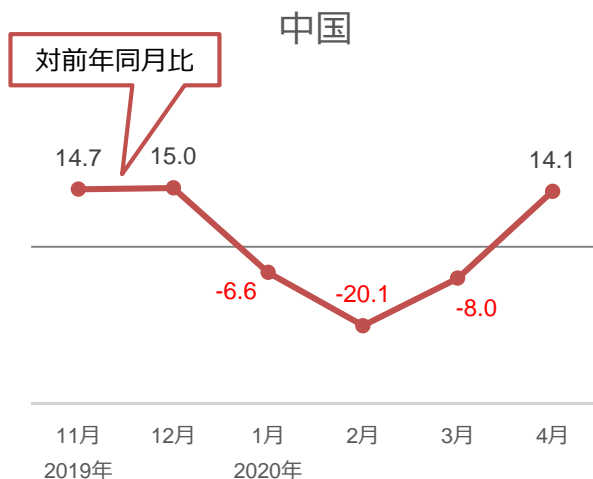
一方で、中国、台湾については、4月単月で対前年比で増加しており、輸出先国・地域の経済活動の回復を見極めていくことが必要。

順位	輸出先	2020年1-4月（累計）		主な増減品目	（参考）4月単月	
		輸出額 （億円）	対前年 増減率 （%）		輸出額 （億円）	対前年 増減率 （%）
1	香港	546	▲ 16.9	真珠、なまこ（調製）が減少	158	▲ 5.7
2	中華人民共和国	439	▲ 3.7	ホタテ貝が減少、清涼飲料水が増加	167	14.1
3	アメリカ合衆国	403	▲ 5.2	ぶりが減少、アルコール飲料が増加	86	▲ 22.4
4	台湾	274	▲ 2.3	りんご、貝柱（調製品）が減少	76	13.2
5	ベトナム	154	11.5	さば、粉乳が増加	43	23.5
6	タイ	120	▲ 9.0	さば、牛肉が減少	30	▲ 29.4
7	大韓民国	120	▲ 39.7	アルコール飲料、ペットフードが減少	28	▲ 50.3
8	シンガポール	89	▲ 10.9	たばこ、ソース混合調味料が減少	22	▲ 22.3
9	オランダ	53	▲ 4.6	ホタテ貝が減少、アルコール飲料が増加	12	▲ 15.5
10	オーストラリア	51	▲ 2.7	清涼飲料水が減少、アルコール飲料が増加	12	▲ 22.8
－	E U	166	▲ 2.5	ホタテ貝が減少、播種用の種が増加	34	▲ 26.6

主要輸出先国・地域向け農林水産物・食品の輸出額の前年増減率の推移

アジア主要国・地域においては、新型コロナウイルスの影響で一時苦戦したものの、回復傾向にある。
一方、米国及びEUについては、依然厳しい状況が続いている。

(単位：%)



農林水産物・食品輸出本部（４月１日設置）の取組状況について

「農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律」に基づき、農林水産省に農林水産物・食品輸出本部を設置。

農林水産物・食品輸出本部の創設

農林水産物・食品輸出本部（農林水産省に設置）

農林水産大臣（本部長）

総務大臣、外務大臣、財務大臣、厚生労働大臣、経済産業大臣、国土交通大臣、復興大臣

基本方針の策定

輸出先国との協議
輸出円滑化措置（証明書発行・施設認定等）
事業者支援 等

実行計画（工程表）の作成・進捗管理

食肉加工施設の認定等のスピードアップ
輸出先国との協議の一体的実施 等

輸出本部の運営のための体制整備

農林水産省に関係府省庁の総合調整機能を付与するための閣議決定
輸出本部の実務を担う輸出先国規制対策課を農林水産省に新設

実行計画（工程表）等の進捗状況

前回の関係閣僚会議（３月６日）から大きな進展があった項目

1 国内対応

シンガポール向け家きん肉取扱施設の認定（宮崎くみあいチキンフーズ(株)都城食品工場）

EU向け牛肉取扱施設の認定（京都市と畜場・京都食肉市場株式会社）

米国向け牛肉取扱施設の認定※（とちぎ食肉センター）

※EU向けについては、EU側の事務手続が終わり次第認定

2 相手国・地域との協議への対応

マカオ向け家きん肉の解禁

マカオ向け牛肉の30か月齢規制の撤廃

サウジアラビア向け牛肉の輸出条件の合意

米国向けなしの検疫条件の緩和

タイ向けかんきつの検疫条件の緩和

その他主な実施事項 ※数値は4月から6月中旬までの実績

1 国・品目別に定められていた約180の輸出証明書等の根拠通知を
分かりやすく一本化し公表

2 一元的な証明書発行システムを稼働、自由販売証明書の発行等
を厚生労働省から農林水産省へ移管、一部の衛生証明書の発行
等を民間機関に加えて農林水産省でも実施

※証明書発行枚数:約32,000枚

3 農林水産省に輸出相談窓口を設置 ※対応件数:約470件（本省）

4 登録認定機関の登録（２機関）

（一社）日本食品認定機構、（一財）日本食品検査

5 主要国・地域向け認定輸出施設数 11か所（牛肉３、水産物８）